



## 院内認定てんかん専門医療者制度とその役割

- 独立行政法人 国立病院機構 西新潟中央病院
- 看護師 加藤慎吾

---

# 本日の内容

- 01 当院の概要と紹介
- 02 院内認定てんかん専門医療者育成制度
- 03 院内認定・研修受講者の活動
- 04 問題点
- 05 今後の展望

# 01 当院の概要と紹介

	病床数400床
てんかん・機能脳神経外科 肺がん 呼吸不全・呼吸器一般 神経難病・整形外科	250床
結核	30床
重症心身障害児(者)	120床
(再掲 療養介護事業所「さくら」)	31床



## 診療科(14診療科)

内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、小児科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、神経小児科、小児整形外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科(入院対応)

2023/12/17

3

## 当院の2大診療科

### 呼吸器疾患

肺癌、アスベスト、睡眠時無呼吸症候群、間質性肺炎など  
肺がんは、手術や放射線療法・化学療法、緩和ケアや在宅  
医療までトータルに対応

### 神経難病

てんかんやパーキンソン病、重症心身障害、整形外科  
てんかん支援拠点病院(全国29施設)に認定



2023/12/17

4

## 当院の教育体制

### 教育体制

1995年7月にてんかんセンターを開設し、管内医療機関等への助言・指導、関係機関との連携、患者家族、地域住民等への教育・啓発活動を担っている。

これらの業務を適切におこなうため、てんかんに関わる職員のスキルアップを目的とし、看護職員及びコメディカル職員への人材育成をおこなっている。

### 院内研修

2007年(平成19年)院内認定てんかん専門医療者研修会開始

### 院外研修

1997年(平成9年)てんかんに関する看護師研修会開始



## 02 院内認定てんかん専門医療者育成制度

### 院内認定てんかん専門医療者育成の目的

てんかん患者や家族に寄り添い患者や家族が疾患を受容し、自立するように支援できる

てんかんに関する知識技術を高めて、質の高い医療を提供できる専門性を育成する

包括的てんかん専門医療施設の中核としてチーム医療を支え、リーダーシップがとれる

他のスタッフへ専門的な知識技術を指導できる医療者を育成する

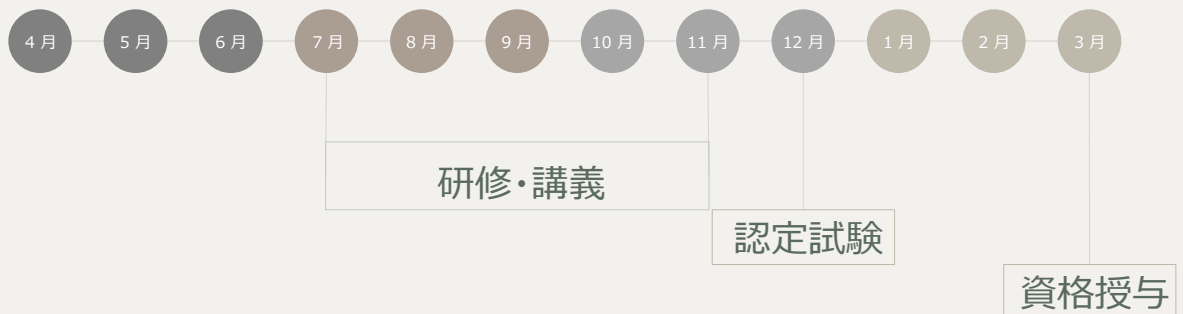
## 院内認定てんかん専門医療者研修の規定

1. 院内研修(時間内15時間)の8割以上を受講し、認定試験に合格(80点以上/100点満点)した職員
2. 授与式を行い、バッジを名札につける
3. 資格の更新基準  
3年毎の更新審査  
自己研鑽ポイント換算表をもとに、資格取得後3年間で20ポイント以上取得する
4. 資格の失効  
3年間で20ポイント以上取得できない場合は認定失効となる

2023/12/17

7

## 院内認定てんかん専門医療者研修のタイムライン



2023/12/17

8

## 院内認定てんかん専門医療者研修内容

研修内容	時間（分）
てんかんセンターの役割と機能、就労問題	90
成人てんかん診断	90
小児てんかんの診断・内科的治療	90
てんかんの外科的治療	90
てんかん手術患者の看護	45
脳波の仕組み・てんかん脳波の特徴・検査	90
成人てんかん発作と薬物治療	90
抗てんかん薬の作用・副作用	90
成人てんかんの看護及び支援	45
小児てんかんの看護及び支援	45
てんかん患者の栄養療法	45
重症心身障害児（者）のてんかん看護	45
保育士のかかわり	45
修了試験	60

## 修了者書 バッジ



## 院外研修：2021年度までのてんかんに関する看護師研修会

対象者：てんかん医療に関心をもっている看護師、経験年数は問わない

事前課題：1000字程度のレポート

定員：約20名

研修期間：2泊3日の宿泊研修

研修費：無料、宿泊は当院の研修棟宿泊施設の利用可

講師：医師と院内認定てんかん専門医療者（看護師）が講師を担当

研修方法：講師による座学とアドバイザー（認定者）と共にグループワークの実施

## 院外研修：2023年度てんかんに関する看護師研修会

対象者：てんかん医療に関心をもっている看護師

経験年数は問わない

事前課題：なし

定員：申込期間内であれば制限なしでURLを発行

研修方法：Web開催 YouTubeを用いたオンデマンド配信

講師：医師と院内認定てんかん専門医療者（看護師）が講師を担当



## 講義内容と視聴回数(2023年)

講義内容	講師	視聴回数(延べ)
てんかんの基礎	臨床検査科長	896回
小児てんかんの診断と治療	小児科医長	628回
成人てんかんの診断と治療	精神科医長	427回
てんかんの外科治療	臨床研究部長	404回
抗てんかん薬の基礎知識	薬剤師	486回
小児てんかん患者の看護及び支援	院内認定てんかん医療者(看護師)	401回
成人てんかん患者の看護及び支援	院内認定てんかん医療者(看護師)	427回
重症心身障害児(者)のてんかん看護	院内認定てんかん医療者(看護師)	414回
てんかん周手術期患者の看護及び支援	院内認定てんかん医療者(看護師)	237回
てんかん診療支援コーディネーターの役割	医療社会事業専門職	301回
脳波検査の基礎	検査技師	358回

2023/12/17

13

## 院内認定てんかん専門医療者の役割

1. 専門領域における役割モデル(日々の看護)
2. 教育プログラムや研修における教育的役割
3. 履修プログラムに参加し知識の更新
4. 学会や研修に積極的に参加

2023/12/17

14

## 認定者の実務活動

1. 院内研修  
院内認定てんかん専門医療者研修講師  
教育研修 キャリアラダー レベル I 研修講師  
各部署での勉強会企画・開催
2. 院外研修  
てんかん看護に関する看護師研修会講師
3. 個人のスキルアップ  
てんかん学会参加  
JEPICAコメディカル部門活動  
看護研究への取り組み



2023/12/17

15

## 03 院内認定・研修受講者の活動

～院内認定てんかん専門医療者研修会に参加してどの様に変化したか～

- 看護師
- 外来看護師
- リハビリ
- 医療社会事業専門職
- 臨床心理師
- 保育師





## 看護師の場合

### 1. てんかんに対する理解度の向上

- 観察すべきポイント、報告すべきポイント、医師が必要としているポイントがわかった。

### 2. 病棟で培った経験と研修で得た知識を活用して患者への対応、新人指導、異動者への指導。

- てんかんに関して学ぶ機会は少ない。そしてOJTにも限界がある。わかりやすくまとめた資料や、入院するてんかん患者に対しどのような安全策をとればよいか判断をサポートできるツールの作成を行ったり、スタッフの知識を向上させることで、よりよい患者対応が可能となるよう全体的なレベルの向上を目指している。

### 3. Web研修の整備

- COVID-19の感染流行を受けyoutubeを利用したweb研修を開始。研修のための資料の作成、当院で取り組んでいることや流れも年々変わるため、動画内容の更新を行っている。

2023/12/17

17

### 4. 手術のために来日した患者とその家族への対応とノウハウの受け継ぎ

視床下部過誤腫への手術を目的にロシアや韓国、近年ではイランをはじめとした中東からの患者が増加。

てんかん認定者を中心にして、入院生活や検査、手術などに関わることについて日本語とロシア語、英語で書かれているファイルを作成。さらに昨年そのファイルをベースにペルシャ語に翻訳した物を作成。

宗教や食文化の違いから通常の病院食を食べることができないケースが多いため、栄養科と連携、情報共有を行い食文化への対応を実施。

手術のために1か月ほど入院期間がかかり、文化や常識、ルールの違いなどが見られることが多くあり、今までの海外からきた患者への対応等から要望に対する方策の提案と、新人や異動してきたスタッフへ今までのエピソードや対応等を伝達を実施。

2023/12/17

18

## 外来看護師場合

### 1. 外来患者への指導、説明

- 紹介受診の場合、検査にて当日てんかんと診断され抗てんかん薬を内服開始することも多い。てんかんについて早期から指導を行う必要があるため、てんかんもしくはその疑いと初めて診断された患者で、次回以降も当院を継続受診する患者には指導を実施。発作時の対応、処方された薬について、日常生活の注意点、免許について、成人と小児向けに2種類パンフレットを作成し説明を行っている。

### 2. 服薬指導への活用

- 妊娠や出産、胎児への影響についての説明。
- 発作が見られないと自己判断で減薬断薬してしまうことがある。

### 4. 免許の取得、車の運転に関する相談。

### 5. 電話相談を受けることも多く、電話相談に対する対応。

## リハビリの場合

### 1. てんかんに関する理解度の向上

- てんかんに対する理解が深まったことにより、発作や発作による麻痺や運動症状、精神症状に対する評価の実施。
- 医師がどこを観察してほしいと思っているかの理解できた。

### 2. 発作への対応

- 低負荷で長めにリハビリを行うなど発作を起こさないよう配慮。
- どのような発作が出るか注意すべきポイントの見極が可能となった。
- 漠然としていた重責発作や緊急事態の対応や判断が可能となった。

### 3. リハビリスタッフに対し大々的に指導をするには至らないが、業務の中で生じたほかのスタッフからの質問や対応のアドバイス等得た知識を伝えることで、リハビリスタッフの理解や知識の向上に寄与している。

## 医療社会事業専門職の場合

### 1. てんかんに対する知識の向上

- てんかんや専門的な相談に対応できるようになった。
- 患者が必要としていることと、自分の仕事の分野を結び付け患者に対応することができる。
- 広い知識と理解を持ち、専門部署と橋渡しができるようになる必要がありその助けとなった。

てんかんと診断されてもその後どうすればいいか、情報提供が不十分なこともある。

てんかんと診断されると内服治療が始まるが、薬代・通院のために仕事を休む・てんかんによる仕事の限定などの問題から経済的な問題が発生する。そのような状況に対し自立支援医療制度があるが、当院の調べでは自立支援医療制度を知っているのは1/4にとどまっている。

医療費、通院の必要性や職業が限定されるといった経済的な問題、てんかんに対する本人を含めた社会の理解不足、てんかん患者は様々な悩みを持っている。

## 臨床心理士の場合

### 1. てんかんに対する知識の向上と患者理解

- 心理、社会的評価の際に年齢差が出るが、小児はてんかんがある場合、知的障害を持っていることも少なくはなく、通常の発達段階ではなかったり、集団の中で自分を出せないことも多い。そのような場合どのように向き合っていけばよいか、相談に対応していけばよいかの助けとなった。
- 成人の場合は運転に対する制約や、就職の難しさ、職場の不理解などの生きづらさに対する理解へとつながった。
- 高次脳の評価の際は研修により、どこに発作焦点を持つために、怒りやすさや言語化がうまくできないなどの特徴がみられていることが理解できた。また、発作時の対応をどうすればよいか理解できた。

### 2. 医師の知りたいと考えていることが明確となり、医師とのカンファレンスなどで伝えるべきポイントを伝えることができるようになった。

## 保育士の場合

### 1. てんかんに対する知識の向上と患者理解

- 研修によりてんかんに対する知識を養うことができた。
- 発作の観察のしかた、術前術後の観察のしかたが分かった。
- てんかんを持つ子供が手術を行う場合、術前にプレパレーションを保育師が中心となり行っているが、患児が理解できるよう配慮や患児が発作をどう捉えているかが重要になってくるため、プレパレーションにも役立てることができている。

### 2. 患者家族との信頼関係の構築に対する助力

- 認定バッジをつけていることで保育師でも知識を持って対応してくれているという、家族に安心感をもってもらい信頼関係の構築に役立てることができた。
- 保育で一時的にてんかんのある患児を預かることもあるため、発作に対する知識があるスタッフが対応しているという安心感を持ってもらうことができ、信頼関係にも役立っている。

### 3. 更新制度ということもあり、学会に参加・発表することで知識を向上させることができている。

## 手術前のプレパレーションの様子



## 共通していること

- てんかんに対する知識が増えたことによる、患者理解への効果大きい。
- 患者を理解することができ、自分の仕事の分野と結び付ける手助けとなった。
- 有病率が約1/100と言われているにしてはてんかんは学ぶ機会が少ない。  
てんかんに対する新しい知識をまとめて深く学習する良い機会となっている。
- 医師が何を観察してほしいと思っているか、どのような情報を必要としているか理解することで、医師に対して有益な情報を提供することができる。

## 04 問題点

1. 資格制度に関する問題
2. 活動や役割に関する問題
3. 病床数と配置換えに関する問題



## 1. 資格制度

- 資格取得者の減少
- 院内専門医療者の資格更新をポイント制としているが、更新制度と院内外の教育及び研修を結びつけにくい

## 2. 活動

- 認定者が自ら活動できるよう役割を具体的に提示していない

## 3. 病床数と配置換え

- 西新潟中央病院ではてんかん患者を扱っている病棟のベッド数は全病棟の55/400床、しかしそのなかでてんかん、脳外、神経小児、神経内科の患者が入院しているためてんかんを持つ患者の割合は多いとは言えない。てんかん発作が比較的出現しやすい重症心身障害児を専門としている病棟は2個病棟あるが、それでもてんかん患者と接する機会は少ない。
- 認定を取得しても看護師の配置換えがあるためてんかんと接することがない病棟に移動すると得た知識を生かせず、資格が失効することにもつながる。
- 配置換えで異動してきた場合てんかんに対する知識がない状況で発作対応することとなる。発作の種類はさまざま。週多数の患者が入退院しており、てんかん発作に対する安全策の提案、てんかん発作時の対応は難しく、スタッフの精神的な負担は大きい。

# 05 今後の展望

1. 院内認定てんかん専門医療者の育成
2. 更新制度の改正
3. 活動の機会を提供



2023/12/17

29

## 1. 院内認定てんかん専門医療者の育成

- 1) 看護部に関しては教育研修計画に組み込む
- 2) 研修方法の検討 eラーニング形式やオンデマンド配信
- 3) 院内認定てんかん専門医療者取得者へのフォローアップ研修
- 4) 学会・研究推進

## 2. 更新制度の改正

- 1) 臨床での現場教育を重視し、てんかんセンター・重症心身障害児(者)病棟・外来での実務期間を考慮する
- 2) 該当病棟での在籍期間に臨床指導にあたる認定者にポイントを付与
- 3) 社会貢献、福祉活動等への参画

2023/12/17

30

### 3. 活動の機会を提供

- 1) 院内認定てんかん専門医療者の組織化  
(認定会議の企画運営、人員の異動配置を考慮など)
- 2) 認定取得者全体で活動計画を策定し、院内・院外活動等企画、運営に携わる
- 3) 地域連携体制として、専門的な相談支援(助言・指導等)  
他の医療機関、自治体等患者・家族との連携・調整を図る
- 4) 地域におけるてんかんに関する普及啓発等の活動

## 06 結び

- てんかん治療は患者にとっては長く付き合う必要のある病気。そのため患者にとって身体的、精神的、経済的な負担はとても様々。
- てんかんを取り巻く状況は日々変化してきている。
- 治療も年々進歩してきており、医療者も知識を更新していく必要がある。(当院でも新しい治療方法が開始する 手術支援ロボットの導入とそれに伴い頭蓋内電極挿入術、てんかんに対する脳深部刺激装置留置術の増加)
- 患者の負担を理解し、正しい知識で必要な援助を見極め提供していくことが重要。